

# 中島実紀 ソプラノリサイタル

ピアノ：黒田聡子

1部	2部
笑いと涙……………シューベルト	「ウィーン気質」より 懐かしい古き街……………シュトラウス二世 (訳詞：黒田晋也)
ガニュメート……………シューベルト	「踊り子ファニー」より シーフェリングのリラの花……………シュトラウス二世 (訳詞：黒田晋也)
くるみの木……………シューマン	私のママはウィーン生まれ……………ゲルーパー (訳詞：黒田晋也)
献呈……………シューマン	「モニカ」より 夢だけでも……………ドスタル
歌の翼に……………メンデルスゾーン	「デュヴリー夫人」より 私の中で何かが始まる……………ミレッカー ウエストサイド物語より
新しい恋……………メンデルスゾーン	アイ・フィール・プリティ〜サムホエア〜トゥナイト……………バーンスタイン
そりすべり……………トウルンク	「キャンディード」より 煌びやかに、着飾って……………バーンスタイン
花嫁探し……………トウルンク	

浜松出身の  
演奏家シリーズXVII

## 2010 四季コンサート

2010年5月22日(土)6:45PM

会場：浜松市教育文化会館

主催：浜松音楽友の会

### プロフィール

#### 中島実紀(ソプラノ)

浜松学芸高等学校音楽科卒業。国立音楽大学声楽学科卒業。二期会オペラ・ストゥディオ第47期マスタークラス修了。イーストマン音楽学校夏季セミナー受講、デイル・ムーア氏に師事。新美博義、酒井あやの、小串昭子、黒田晋也の各氏に師事。第16回静岡県学生音楽コンクール第1位。第50回全日本学生音楽コンクール東京大会第2位。これまでにオペラでは、第4回浜松市民オペラ「三郎信康」の侍女・甲役、同第5回「魔笛」のパパゲーナ役、ドン・チマッティ生誕125年オペラ「細川ガラシア」では巡礼の娘役、日本オペラ連盟人材育成公演「ボッペアの戴冠」のアモーレ役に出演。オペレッタでは、オペレッタ座公演「リーベ・クロスター」のクララ役、同公演「マイン・シャッツ」の加賀清子役、調布市民オペラ第11回公演「こうもり」のイダ役に出演。2009年3月には「ACT New Artist Series」にてリサイタルを開催。2010年5月には二期会サロンコンサート、その他、様々なコンサートに出演し活躍中。二期会会員。

#### 黒田聡子(ピアノ)

国立音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業。野村知世、清水せつ、石塚由紀子の各氏に師事。東京夏の音楽祭「チャルダッシュの女王」のピアニスト役で出演。また、「小さなコンチェルト」では東京交響楽団と共演。その他、室内楽など活動の範囲は多岐にわたっている。オペレッタやウイナー・リート伴奏、コンサート、オペラ、ディナーショー、サロンコンサートなどフリーの伴奏者として幅広く活躍中。東京室内歌劇場会員。

中島実紀  
ソプラノリサイタル



MIKI NAKAJIMA  
SOPRANO RECITAL



●フランツ・シューベルト(1797~1828)／笑いと涙 ガニュメート

シューベルトは短い生涯の中で、600曲近い歌曲を残した。＜笑いと涙＞はリッケルトの詩により、おそらくは1823年に書かれ、1826年に出版された。「笑いと涙がどんな時にも 愛の側でくつろぐのは本当にいろいろな理由があるもの」と歌われる。＜ガニュメート＞は、ゲーテの詩による通称形式のバラードで、1817年に作曲されて1825年に出版された。ガニュメートとはギリシア神話に登場するトロイアの王子で、オリンポスの神に不死の酒を給仕すると伝えられる。

●ロベルト・シューマン(1810~1856)／歌曲集《ミルテの花Op.25》より くるみの木 献呈

シューマンが1840年に書いたのが「ミルテの花」。ミルテとは地中海沿岸に咲く白く香り高い花。ドイツでは純潔を表すため、花嫁の装飾に使われる。花言葉は愛、だからこそシューマンは結婚前夜にこの曲集をクララに献呈したのである。モーゼンの詩による＜くるみの木＞は第3曲、「乙女が花嫁となる未来の夢を育む」と歌われる。第1曲＜献呈＞ではリッケルトによる「君は僕の心、僕の喜び、心の痛み、安らぎ、僕以上の僕」という詩が恋人に対する真摯な情熱を吐露する。

●フェリックス・メンデルスゾーン(1809~1847)／歌の翼に 新しい恋

メンデルスゾーンもまた、数多くの歌曲を残している。なかでもよく知られているのが＜歌の翼に＞。この曲は「6つの歌曲Op.34」の第2曲で変イ長調、ハイネの詩によって「歌の翼に乗せて、君をガンジス河まで連れて行こう」と歌う。また＜新しい恋＞は「6つの歌曲Op.19」の第4曲で嬰へ短調。夜の雰囲気漂わせ、ハイネの詩によって「月明かりの森の中を妖精たちが通って行った。それは新しい愛の合図なのか、死のそれなのか」と不安気に歌われる。

●リヒャルト・トゥルンク(1879~1968)／そりすべり 花嫁探し

トゥルンクは、ドイツの作曲家、ピアニスト、指揮者、音楽評論家。ミュンヘンでヨゼフ・ラインベルガーに薫陶を受け、ニューヨークに招聘されて指揮活動をしたり、オペレッタ「ハートの女王(1916年)」や合唱曲、また歌曲を数多く作曲、また旺盛な評論活動も展開している。グスタフ・ファルケの詩によるメロディアスなく＜そりすべり＞と、アルベルト・ゼルゲルの詩による軽快で官能的なく＜花嫁探し＞は、同じ曲集に収められた佳曲である。

●ヨハン・シュトラウスⅡ世／オペレッタ《ウィーン気質》より 懐かしい古き街

オペレッタ《踊り子ファニー・エルスラー》より シーフリングのリラの花

「ワルツ王」と呼ばれたJ.シュトラウスⅡ世(1825~1899)は夥しい数のウィーナ・ワルツやポルカを作曲、また数々の人気オペレッタを残した。この《ウィーン気質》は、既に作曲されていたワルツやポルカを集めて編曲した全3幕のオペレッタ。作曲家が途中で他界したため、指揮者A.ミューラーが引き継いで完成させた。この＜懐かしい古き街＞は、第1幕フィナーレで歌われる。《踊り子ファニー・エルスラー》は1935年、J.シュトラウス2世の名曲をもとに指揮者O.スタックによって仕上げられたオペレッタ。エルスラーは実在した美貌のバレリーナで、ウィーンに生まれ、全世界を舞台に活躍した。シーフェリングとは、郊外の美しい村。

●ルードヴィヒ・グルーバー(1874~1964)／私のママはウィーン生まれ

グルーバーは、ウィーンに生まれた作曲家、歌手、指揮者である。叔父にピアノを学び、音楽院に進んでロベルト・フックスなどに薫陶を受けた。やがてチェコの温泉保養地カルロヴィツヴァリに劇場を設立、経営にも携わった。作曲家としてもオペラやオペレッタ、合唱曲、宗教曲、歌曲などを残している。取り分けこの作品は、グルーバーの代表作としてよく知られており、「ママはウィーンで生まれたから、私はこの街が好き。私はウィーンが好き」と歌われる。

●ニコ・ドスタル(1909~1969)／オペレッタ《モニカ》より 夢だけでも

ドスタルは第一次世界大戦に従軍した後、インスブルックやウィーン、ザルツブルクの宮廷楽長も務めたオーストリアの作曲家である。編曲家としても活躍したが、ドスタルは、「最愛の人」や「ハンガリーの結婚」などのオペレッタや、また映画音楽についてもそれぞれ20曲以上を残している。今日歌われるのは、1937年に作曲されたオペレッタ《モニカ》から＜夢だけでも＞。

●カール・ミレッカー(1842~1899)／オペレッタ《デュバリ夫人》より 私の中で何かが始まる

ミレッカーはウィーンで生まれた作曲家。当初フルートを学んだが、主に《乞食学生》などオペレッタの作曲家として活躍、当時はスッペやJ.シュトラウスに並ぶ人気を誇った。ウィーン歌劇場の指揮者を務めたことでも知られる。1879年10月31日、ウィーンのアンデアウィーン劇場で初日を迎えたオペレッタ《デュバリ夫人》は1951年ドイツで映画化もされた。その中から＜私の中で何かが始まる＞。

●レナード・バーンスタイン／《ウエストサイド物語》より アイ・フィール・プリティ〜サムホエアートウナイト  
(キャンディード)より 煌びやかに、着飾って

バーンスタイン(1918~1990)は、20世紀を代表する指揮者、作曲家、ピアニストである。指揮者としては一世を風靡し、作曲家としてもクラシカルな交響曲等からミュージカルや映画音楽まで幅広い作品を発表した。《ウエストサイド物語》は、「ロミオとジュリエット」に着想を得て当時の若者たちを描いたブロードウェイの大ヒット作。映画でも世界中を魅了した。一方の《キャンディード》は、ヴォルテールの「カンディード或は楽天主義説」を原作とした舞台劇。やはりロングランを続けたが、この＜煌びやかに、着飾って＞は超絶技巧を要する難曲として知られる。